

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人恵友会 こどもの広場ばいん		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 27日		～ 令和6年 12月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 6日		～ 令和6年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多種多様な場の提供	保育園跡地を利用して事業所を開設しているので広い庭を所有している。身体運動を取り入れた集団活動遊びやイベントの企画をしている。身体を動かす多様な遊びは運動能力の向上であったり、コミュニケーション力を高めたりする場になっている。また、発達段階に合わせ多様な活動はストレス解消になり、リフレッシュに繋がっている。	季節ごとや年齢別に多種多様なイベントを定期的に企画し、お子さんひとり一人のこころの豊かさを求めた内容のプログラムの充実を図っていく。毎年12月に恒例で実施しているクリスマスデコレーションケーキ作りでは、準備された物を自分なりに仕上げるプロセスで、個々の創意工夫、周囲の意識、達成感、家族とのコミュニケーションの場になるなど様々な活動を通して体験型療育を積み重ねていく。
2	地域交流を兼ねた外出レクリエーション	長期休暇、土曜日を利用しての外出レクリエーションを定期的実施している。地域交流を兼ねた、和菓子作り体験・お茶会(てまえ学び塾協力)・ものづくり体験・夏祭り・りんご狩り・じゃがいも掘り・さつま芋掘り・ブルーベリー摘み・買い物体験・食事マナー体験・工場見学・納会等ボランティアの協力を得ながら行っている。	ひとりでも多くのお子さんに参加できるように、利用日や時期を考慮して実施していくとともにボランティアを募る。外出機会を増やして色々な場所に出かけることで、地域の方々の関わり方やその場に合った言動がとれるよう働きかけていく。
3	多職種連携	毎月勉強会や職員会議の中で多面的な支援に繋がるようにしている。保育士・言語聴覚士・作業療法士・児童指導員その他職種の職員が集団療育・個別療育に携わって行くことで、お子さんの発達課題に沿った療育ができるよう取り組んでいる。	専門性に加え、コミュニケーション能力や連携を強化するためのリーダーシップをとれる職員育成していく。様々な職種の知識・能力を発揮できる環境を整えてチームとして療育に関わる意識を高めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用受け入れ調整	令和7年2月の段階で66名の登録となっている。定員10名であり、毎月利用希望に沿えない日の調整が困難になっている。他事業所や学童の利用、希望日数の検討などを保護者に理解して協力をお願いしているが、調整のために時間がかかってしまうことが課題となっている。	他事業所、同法人内の事業所を併用している場合は利用日の調整をしているが、希望に沿えないことが多い。また、相談支援員との連携を試みているが改善策になるのか検討中である。
2	活動合わせた療育室の確保	療育棟・管理棟を含め規定のスペースはあるが、雨の日や年齢に分けての課題内容によっては使用スペースが狭くなってしまうことがある。運動活動は広い庭があるので十分過ぎる環境ではあるが、長期休暇や土曜日は終日利用となり、長時間過ごすことになるためお子さんたちの気分転換に努めている。	室内での運動活動や集団活動のスペースを確保するために、令和7年度に新たに療育棟を建設する予定である。使用目的の幅が広がり、現在課題となっていることが改善される。
3	職員の意識向上	勤務状況により全体での会議が十分に実施できないことがある。毎月合同勉強会・内外部研修等に参加する機会は設け、伝達研修を行なっている。毎日、申し送り・振り返りを行い情報の共有ができるようにするとともに、自己研鑽の意識と知識を得られる環境にしている。	職員体制上、参加できる研修とそうでないものがあるので、いかに分かりやすく伝達研修を行うかまた、意見交換を重ねていくことで自ら学んでいけるように、有効な時間の使い方を考えていく。